

刊夕 日八十月三

新人學兒童の

取扱方

千葉右近

【四】

(一) 疑問質問を尊重せよ
學校生活がはじまると子供の世界は急に廣くなり子供にとって珍らしい現象は極めて多くなり、疑問なことが澤山出來て来る。子供は

歸宅してこれ等を家人に得

意になつて語る。子供の最

もよき話相手は母親である

母親は子供と同じ心になつ

て眞面目に聽いてやるべき

である。間違つた話だから

とてからかつたり一笑に附

したりする事は避けねばな

らぬ。また無理に教へ込む

必要は更にない。

(二) 夕食時に於ける注意

學校に於ける一日の生活を

夕食の際に「今日は何を覺

えて來たか」とか「何を習つ

て來たかとか」半ば物珍ら

しさから家中のものが寄つ

てたかつて聞くことは良く

ない。聞かれると子供心に

も大變責任を感じる。學校

では入學しなばかりの兒童

に無暗に色々のことを使へ

るものではない。

だからたづねるとすれば

「今日何を見て來たか」「何

をやつてきたか」といふ風

があらねばわざく足をのみ

少年戦士の就職希望は

主にも鐵工業

郡下だけで五百名突破か

車輪的躍進を續けてゐる機械工業は全國的に物凄く今

や好景氣の中心となつてゐるが、この機械工業の發達

は童心に大なる衝動を與へ

近く學窓を築立つ少年達は殆ど

就職先を鐵工業に希望してゐるため就職斡旋に奔走の職業紹介所は少なからず面喰つてゐる、常磐炭礦所在の平、湯本兩町職業紹介所は二十の連絡校を有し就職希望児童のため昨秋以來各方面と連絡を保ち就職の途を講じつゝあるが次から次へと就職を申込ん

地元炭礦の機械方面のほか日立鑛山や東京の大工場への希望でその數は既に二百を突破してをり今後も更に續出の模様で會社商店等は薬にする程もないといふ現象に職紹の係員は今さら驚いてゐるが職紹を経ずして児童の父兄達が直接錦工場へ就職運動してゐる者も可成り多くあり、これ等を合すれば

鐵工業を志す児童の數は石城郡下だけで五百を突破するものと豫想され

た、判決言渡しは来る二四日午前十時、尙此の公判に平第三生徒百五十名が傍聴した

懲護士の辯護士の「極めしアツガリとやつてのけ然もそれが二度目である文に戰慄に堪へない性格の所有者である」と前提し懲役六年を求刑し安齋官選

のアラモード

天氣

同様

今晚は晴明日も

明日の部

前九〇〇衛生メモ

座武内大造

基礎獨逸語講

前一〇三家庭講座

前七三朝の修養

三教指歸吉祥真雄

防南崎雄七

寄生虫ハ害毒とその豫

後八〇五映畫物語「子

冬から春」市川喜美江

後八四五西國札所とて

後九三〇時報ニヨ

ス明日の歴史番組豫

後八〇〇民謡組曲「春

磨の寫繪」清元巴榮太失

後八五〇南部坂寺坂

後八二二〇清元今様須

三浦靜子他桃谷演奏所

後七三〇講演統制經

崎一郎

讀佛歌青葉兒童學園

後六二五農家の時間

合理的肥料の使ひ方川

美容早見君子

後六〇〇子供時間

